第44回全国共通テスト国語（時間50分）

学研教室

級 2級

名前 解答

学年 中2

教室名

会員番号

2023年実施

131412

1 ――の漢字に読みがなをつけなさい。

(1) 大空を鶴が飛んで行く。（つる）

(2) 困難に打ち勝とうと心に誓う。（ちか）

(3) 世界の平和を祈願する。（きがん）

(4) 停電で、突然明かりが消えた。（とつぜん）

(5) 調査を研究所に委託する。（いたく）

(6) 福祉を重視した市政を行う。（ふくし）

2 次の□に漢字を書きなさい。

(7) 沼（ぬま）のほとりを散策する。

(8) 冷たい川の水に手を浸（ひた）す。 日×

(9) 清掃（せいそう）活動を支援（しえん）する。 忘れない 反×

(10) 北海道で酪農（らくのう）を営む。

(11) 緻密（ちみつ）な計画を立てる。 又×

(12) 被災地（ひさいち）に調査団を派遣（はけん）する。 貝×

3 ――の言葉を、**漢字と送りがな**で書きなさい。

(13) 生徒たちが、かろやかな足取りで教室から出てくる。（軽やか）

(14) この船は、次の港に三日間とまる予定だ。（泊まる）

(15) このままでは、我（わ）がチームの優勝はあやしい。（怪しい）

裏にも問題があります！

4 A・Bは類義語です。□に、A・Bのどちらを当てはめても文の意味が通るものをそれぞれ一つずつ選び、記号を○で囲みなさい。

(16) A上がる　B上る

ア　野菜の値段が□。
イ　駆け足で坂を□。
ウ　小舟が川を□。

(17) A美しい　Bきれいな

ア　高原に□花が咲き乱れている。
イ　□友情を描いた小説。
ウ　不正のない□選挙を行う。

(18) A淡い　B薄い

ア　現代音楽への興味が□。
イ　先輩に□恋心を抱く。
ウ　□緑色のブラウス。

5 次の各文から副詞を一つずつ見つけ、（　）に書き抜きなさい。また、その副詞の種類をあとのア～ウから選び、□に記号で答えなさい。（各完答）

(19) 待っていても、彼はたぶん来ないだろう。
（たぶん）　ウ

(20) 赤ちゃんが、ベッドですやすや眠っている。
（すやすや）　ア

(21) 広場には、かなり多くの人が集まっている。
（かなり）　イ

ア　状態の副詞　　イ　程度の副詞
ウ　呼応の副詞（陳述の副詞・叙述の副詞）

6 次の文の種類をあとの［　］から選び、□に記号で答えなさい。

(22) ゆみさんは歴史小説を借り、まなさんは推理小説を借りた。　ウ

(23) 僕の家のすぐ近くに、来月、レストランがオープンする。　ア

(24) 雨がやっと上がったので、私は急いで駅へ向かった。　イ

［　ア　単文　イ　複文　ウ　重文　］

7 次の――の助動詞と意味・働きが同じものをそれぞれア～ウから一つずつ選び、記号を○で囲みなさい。

(25) いたずらをして、母にしかられる。
ア　友達に後ろから声をかけられる。
イ　この試合に勝てば地区大会に出られる。
ウ　社長が視察旅行に出発される。

(26) 夏休みに、沖縄へ行った。
ア　宿題は今、やり終わったところだ。
イ　壁に掛かった絵を見る。
ウ　先月、新しいスーパーが開店した。

(27) この地方は、積雪が多いそうだ。
ア　週末はよい天気になりそうだ。
イ　この映画はおもしろそうだ。
ウ　駅前に観光案内所ができるそうだ。

(28) 雨はやんだようだ。
ア　夜空に輝く星は、宝石のようだ。
イ　明日の会議は延期になるようだ。
ウ　優勝するなんて、まるで夢のようだ。

表にも問題があります！

❷ 級
名前

8 ――の単語が次の説明に当てはまるものをそれぞれア～ウから一つずつ選び、記号を○で囲みなさい。

(29) 活用しない自立語で、連体修飾語にしかならない単語。

ア 目の前に青い海が広がっている。
イ 海岸で小さな貝殻を拾った。
ウ 犬を連れて、公園を散歩する。

(30) 付属語で活用しない単語。

ア あの建物は、図書館です。
イ 行きたければ、行けばよい。
ウ 気持ちのいい朝だね。

9 次の――(31)～(36)の単語の品詞名をあとのア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- バス停まで必死に走った。(31)しかし、(32)バスはもう出たあとだった。
- 森の中から、(33)子どもたちの(34)元気な声が聞こえてきた。
- (35)あれっ、おかしいな。先週までここにあった(36)小屋がなくなっている。

(31) ア　(32) キ　(33) コ
(34) ウ　(35) ク　(36) エ

ア 動詞　イ 形容詞　ウ 形容動詞
エ 名詞　オ 副詞　カ 連体詞
キ 接続詞　ク 感動詞　ケ 助動詞
コ 助詞

10 次の古文を読んで、あとの問題に答えなさい。

※漢字の読みがなは、現代仮名遣いにしてあります。

神無月の頃、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に尋ね入ることはべりしに、はるかなるこけの道を踏み分けて、心ぼそく住みなしたる庵あり。木の葉にうづもるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふ物なし。閼伽棚に菊、紅葉など折り散らしたるは、さすがに住む人のあればなるべし。

①かくてもあられけるよと、あはれに見るほどに、かなたの庭に、大きなる柑子の木の、枝もたわわになりたるが、周りをきびしく囲ひたりしこそ、少しことさめて、②この木なからましかばと覚えしか。

（兼好法師『徒然草』より）

＊神無月＝陰暦の十月。　＊懸樋＝竹や木を地上にかけて水を流す樋。
＊閼伽棚＝仏に供える水や花などを置く棚。　＊柑子＝みかん。

(37) ～～「うづもるる」を、現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

（うずもるる）

(38) ――①とありますが、筆者が庵の様子をしみじみと深く感じ入って見ていることがわかる言葉を、第二段落から六字で書き抜きなさい。

あはれに見る。

(39) ――②「この木なからましかば」と筆者が思ったのは、なぜですか。次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 華やかな庵の様子には、みかんの木は素朴過ぎて調和がとれないと感じたから。
イ 庵の主の俗っぽい心が感じられて、住まいの趣を破っているのを、残念に思ったから。
ウ みかんを取りたいという自分自身の欲望に気づき、後ろめたい気持ちになったから。

裏にも問題があります！

11 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

日本の住まいでは、風を遮断しながらも、いつでもそれを取り込めるような装置を、*格子や襖や*明障子のほかにも、さまざまなデザインで実現してきた。季節によっては空気の流れは、好ましいものとして楽しまれてきたのである。[A]、わずかな空気の流れをも捉えて音に変換する装置としての風鈴が楽しまれもした。

日本の住まいにおけるしきりが、頑強に自然環境からの遮断によって人工性を主張するのではなく、自然環境を取り込むようなしきりとなったのは、日本の自然環境が人間にとってさほど厳しいものではなかったからなのかもしれない。鳥や虫の声、雨や風の音をけして排除するのではなく、むしろ好ましいと思う感覚も、①そうしたしきり方と結びついているように思える。自然環境を強固に遮断することはしなかった、そうした住まいに生活したがゆえに、人間の関係つまり社会的関係性もきわめて微妙にまた曖昧にしきる意識が形成されたのではないか。そこには②近代的なプライバシー意識とは異なった、他者とわたしの関係が存在した。

ものや装置によって、わたしたちの感覚や意識が形成されたのか、逆にわたしたちの感覚や意識によってものや装置のあり方が生まれたのか。それはどちらもありうる。いずれにせよ、ものや装置とわたしたちの感覚や意識のあり方は深くかかわっていることは否定しえない。

*衝立や几帳あるいは襖のように垂直に、つまり壁状になるしきりは、空間を切断し空気の流れを調節しまた視線を遮るはっきりとしたしきりとして認識することができる。[B]、わたしたちの住まいには、そのようにはっきりとした空間をしきる装置としては見えないのだが、空間をしきっているものがいくつもある。そのしきりは、壁状のしきりよりもさらに文化的そして社会的しきりとして機能しているといえるだろう。たとえば、板の間と畳の座敷の違いは、③素材によるしきりによっている。そして、そのしきりは空間の格を差異づけている。入り口ちかくと奥の距離も同様である。

建築史家の鈴木博之さんにうかがった④面白いエピソードがある。鈴木さんは、ハーバード大学で日本の建築についての講義をし、学生たちを実習体験のためボストン美術館に設えられた日本の部屋に連れて行ったところ、部屋からはるかに離れた場所で靴を脱いでしまう学生や、室内に入り込んで靴を脱ぐ学生までさまざまだったというのだ。日本の住まいでは靴を脱ぐのだということを知ってはいても、てはどこが靴を脱ぐしきりになっているのか、そのしきりがわからないのである。

（柏木博『講談社「しきり」の文化論』より）

*格子＝すきまを空けて細い木を縦横に組み合わせたもの。窓や出入り口などに取りつけられる。
*明障子＝今の障子のこと。木の枠の縦横に細い木を渡し、紙を張ったもの。
*衝立や几帳＝衝立は、下に台がついている家具で、室内に立ててしきりや目隠しに用いた。几帳は、台に柱を立ててその上に横木をつけ、横木から布を垂らしたもの。

(40) [A]・[B]に当てはまる言葉の組み合わせとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aそれで　Bそれとも
イ Aだから　Bしかし
ウ Aところで　Bそれで
エ Aけれども　Bすなわち

イ

(41) ——①「そうしたしきり方」とありますが、「そうした」が指す、日本の住まいにおけるしきりの特徴を表した言葉を、文章中から**九字**で書き抜きなさい。

・自然環境を取り込む

(42) ——②でいう「他者とわたしの関係」のしきりは、どのようなものだと述べていますか。そのことを表している**二字**の言葉を、同じ段落の中から**二つ**書き抜きなさい。（完答）

微妙・曖昧

(43) この文章は、大きく二つに分けることができます。それまでの段落の内容を受けながら、さらに違う観点で「しきり」について述べているのは、どこからですか。後半の**初めの五字**を文章中から書き抜きなさい。

衝立や几帳

(44) ——③「素材によるしきり」はどのようなしきりといえますか。その説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然環境を強固に遮断するしきりとして設けられたもの。
イ 感覚や意識によるしきりで、空間をしきるはっきりとした装置としては認識されないもの。
ウ 壁状になっているしきりで、空気の流れを調節するもの。
エ 文化的・社会的な機能を持たないしきりとして、はっきりと空間を切断するもの。

イ

(45) ——④「面白いエピソード」とありますが、筆者は何のためにこのエピソードを挙げたのだと考えられますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外国の学生にとって、日本建築は、奥深くて簡単には理解できないきまりごとがたくさんあるということを示すため。
イ 学生の実習体験のために美術館が全面的に協力するという、公共施設と大学との連携が社会に根づいている、ということを示すため。
ウ はっきりとは見えない空間のしきりは、文化的・社会的しきりが理解できていないと認識できない、ということを示すため。

ウ

表にも問題があります！